

4月25日までの自学自習の課題について

教育人間学科 新1年生 課題

I. 学習テーマ設定の趣旨、求めたい学習の成果や目標

教育人間学科での学びを始めるにあたり、今日の学校や教師、子ども、社会等がかかえているとされる様々な問題に興味・関心を持ち、それらに関する報道（テレビ、新聞、雑誌、書物等）に積極的に接するようになってもらいたい。あわせて、大学での学習をスムーズに始める上で必要な読書や作文の習慣も身につけてほしい。

II. 学習テーマの内容

- (1) 現在の教育改革論議の中心の一つが、教員の資質（実践的指導力）とは何か、をめぐりものである。まずは学校を舞台とする小説を読みながら、そこに登場する教師が持っている資質（特に、子どもを見る態度・姿勢や力量）とはどのようなものであるか、について、これまでの自身の経験とも突き合わせながら考えてもらいたい。
- (2) 同じく昨今教育をめぐって話題となっているのが、子どもたちの人間関係の在り様である。こうした在り様の変化は、例えば文科省による「いじめ」の定義を変えさせたほどの大きな変化であるが、これについても、近年の代表的な子ども論を自己の経験と突き合わせながら学び、その妥当性を検証してもらいたい。

III. テーマ学習の方法

(1) 課題図書1として、

- ・灰谷健次郎『兎の眼』角川文庫（600円）
- ・石田衣良『5年3組リョウタ組』角川文庫（740円）
の2冊を読み、自己の経験とも照らし合わせながら、教師の資質、特に子どもを見る目とはどのようなものであるか、あるべきか、自身の意見をまとめる。

(2) 課題図書2として、

- ・齋藤孝『友だちがいないと不安だ症候群に効く授業』朝日文庫（672円）
- ・菅野仁『友だち幻想』ちくまプリマー新書 079（756円）（又は、土井隆義『友だち地獄』ちくま新書 710（798円））

の2冊を読み、自己の経験とも照らし合わせながら、現代の子どもの人間関係の在り様について、自身の意見をまとめる。

(3) 課題についての問い合わせ

- ・詳しい質問は、滝沢（k_takizawa@mail.tais.ac.jp）まで問い合わせること。
- ・学生が登校して課題について質問できるオフィスアワー（水曜日[10:55-12:25]、2号館4F）を設定するので、積極的に活用すること。
- ・質問と回答は定期的にブログ記事（<http://www.tais.ac.jp/education/faculty/c-2/blog/>）にアップするので、そちらも併せて参照すること。

IV. レポートの指示（評価、〆切、提出場所）

レポート分量：一課題 2000 字程度（おおよそ 1000 字を本のまとめ、1000 字を自身の意見に充てる）。A4 ワープロ原稿の場合、横書き 40 字×40 行でページ設定。原稿用紙に手書きの場合は、同じく横書き A4 の 400 字詰原稿用紙を用いること。

〆切：5 月 9 日（月） 17:00

提出場所：教育人間学閲覧室（2 号館 4 階）

提出の際の注意：レポート提出用紙（緑の紙：提出時に副手さんから受け取ってください）をつけてください。

レポートの評価：以下の観点をもとに行なう。

- ・ 基本姿勢：レポート作成の基本的ルールが守られているか（原稿用紙のルール、引用方法など）。
- ・ 批判的理解：情報が的確に理解され吟味されているか。
- ・ わかりやすい表現：正しい日本語でわかりやすく書かれているか。
- ・ 論理的な表現：自分の意見が論理的に書かれているか。

レポートは、添削、コメントを付して、後日返却します。

教育人間学専攻 2 年生 課題

（留年して 1 年に在籍する学生含む）

I. 学習テーマの趣旨・求めたい成果・目標

1 年次の教育人間学基礎ゼミナールは、書籍や新聞、インターネットなどの情報を的確に理解し、その理解に基づいて自分で考える、という点に主眼を置いていた。本課題では、その成果を、より日常的・実践的な文脈で活用することが目的である。皆さんには、本課題に取り組むことで、基礎ゼミで学んだこと（読む際の注意点、レポート作成時のルールなど）を思い出し、論理的に考え、説得力のある文章を書く練習をしてほしい。

II. 学習テーマの内容

- (1) 中東のリビアの情勢が緊迫化し、英米を中心とした多国籍軍による軍事的介入が行なわれている。なぜこうした事態になったのか、リビアおよび中東を中心とした国際的な政治の動向についてまとめる。
- (2) (1) は、日本の教育にどのような影響を与えるか、教育者/学習者はそれにどのように対応するべきかを考える。
- (3) (1) および (2) をまとめ、レポートを作成する。

III. テーマ学習の方法

- ・ 検索結果をまる写しにしないこと。引用が全体の 3 分の 1 を超えないこと。
- ・ (2) については、自分の興味のある観点から考えてよい（例：歴史・公民・宗教教育の在り方、メディアリテラシー、など）
- ・ 詳しい質問は、犬塚（m_inuzuka@mail.tais.ac.jp）まで問い合わせること。

- ・ 学生が登校して課題について質問できるオフィスアワー（水曜日[10:55-12:25]、2号館4F）を設定するので、積極的に活用すること。
- ・ 質問と回答は定期的にブログ記事（<http://www.tais.ac.jp/education/faculty/c-2/blog/>）にアップするので、そちらも併せて参照すること。

IV. レポートの指示（評価、〆切、提出場所）

レポート分量：4000字程度

〆切：5月9日（月） 17:00

提出場所：教育人間学閲覧室（2号館4階）

提出の際の注意：レポート提出用紙（緑の紙：提出時に副手さんから受け取ってください）をつけ、授業名を基礎ゼミナール、教官名に基礎ゼミナール担当教員の名前を書くこと。

レポートの評価：以下の観点をもとに行なう。

- ・ 基本姿勢：レポート作成の基本的ルールが守られているか（書式、引用など）。
- ・ 批判的理解：情報が的確に理解され吟味されているか。
- ・ わかりやすい表現：正しい日本語でわかりやすく書かれているか。
- ・ 論理的な表現：自分の意見が論理的に書かれているか。

レポートは、添削、コメントを付して、後日返却します。

教育人間学専攻 3年生課題

（留年して2年に在籍する学生含む）

I. 学習テーマの趣旨・求めたい成果・目標

震災に見舞われ、日本国全体が厳しい情勢であるが、3年生諸君は、秋学期の終わりには、いよいよ就職活動の時期に突入する。この課題では、指定する文献の購読とレポート作成を通じて、就職活動の助けとなる知識を得、その意識向上をはかってもらうとともに、あなたの将来のキャリアの在り方を考えてもらいたい。また、職場での学習や人づくりの実態に関する知識を得、ひろい意味での教育のあり方について検討してもらいたい。

II. 学習テーマの内容

- ・ 本課題は、授業の代わりである。毎日3時間程度の学習に取り組むこと。
- ・ 以下に挙げるA～C群の文献のうち、いずれか一冊以上を購読すること。ネット通販のAmazonや大型の本屋にはいずれかは置いてあるが、どうしても入手できないという場合は、上記の学習テーマに関連するもののみ、自分で探して使用してもよい。

購読文献（いずれか1冊以上購読すること）

A群（就職活動の準備用テキスト）

- ・ 渡辺峻 2008『大学生のためのキャリア開発入門』 中央経済社（2100円）
- ・ 山本直人 2007『大学生のためのキャリア講義—就活本を読む前に—』 インデックスコミュニケーションズ（1500円）

B群（心理学・教育学からのキャリア教育・職場教育）

- ・下村英雄 2009『キャリア教育の心理学』 東海教育研究所（1800円）
- ・下山博志・匠英一 『プロコンサルタントの人材変革力』 同友館（1800円）

C群（企業の人材育成の在り方について）

- ・一條和生・徳岡晃一郎・野中郁次郎 『MBB：「思い」のマネジメント：知識創造経営の実践フレームワーク』 東洋経済新報社（1800円）
- ⑥吉田新一郎 2006 『「学び」で組織は成長する』 光文新書 239（700円）

Ⅲ. テーマ学習の方法

- ・レポートの構成は、《前半》と《後半》にわけて書くこと。
- ・《前半》では、『各章の要約』と『各章の内容に対するあなたの意見・感想』を、1章分ずつ分けて、全章分、記述していくこと。
- ・レポートの《後半》では、『全体の要約』と『全体を踏まえての意見・感想』を論述すること。
- ・分量は、A4用紙（1枚につき1000字程度と数えて）、全部で5～10枚程度が目安。

EX. レポートの形式の例

《前半》

第1章「〇〇」（←本の章のタイトルを書く）の要約と感想

- ①要約（400字程度）
- ②意見・感想（400字程度）

第2章「××」の要約と感想

- ①要約（400字程度）
- ②意見・感想（400字程度）

※以下、第3章、第4章…と続け、本の最後の章まで、記述していく。

※章のほか、「はじめに」や「プロローグ」等がある本の場合は、それを一つの章として別途まとめてもよいし、第1章に含めてもらってもよい。

《後半》

まとめ

- ①全体の要約（500字～800字程度）
- ②全体の意見・感想（500字程度）

※以上の（ ）内の字数は、必要に応じ、短すぎない程度に調整してよい。もちろん増やしてもらってもかまわない。

※アドバイス

- ・本により、章の数が異なるため、9章以上に及ぶような、章の数の多い本の場合は、2～3章分ずつまとめて要約と意見・感想を述べてかまわない。あるいは、字数を少なくして1章分ずつ、書いてもよい。
- ・ただし、必ず、全ての章についてまとめること。
- ・私たち教員のためのレポートではない。あなたの近い将来の就職活動やキャリア設計、教育論の検討等に役立てる心づもりで執筆しよう。そのためであれば、多少、形式は工夫してもらってもかまわない。

- ・教員志望者にとっても、生徒が将来就職する職場では、こういった人材育成がなされているか、それを踏まえ、学校でこういったキャリア教育を実施すべきかなどは、重要な課題である。レポートの意見・感想はそういった観点から執筆してもらってもよい。
- ・1日1章ずつでも、購読・執筆していけば、十分行える量の課題である。

※課題の問い合わせ

- ・詳しい質問は、香川 (s_kagawa@mail.tais.ac.jp) まで問い合わせること。
- ・学生が登校して課題について質問できるオフィスアワー (水曜日[10:55-12:25]、2号館4F) を設定するので、積極的に活用すること。
- ・質問と回答は定期的にブログ記事 (<http://www.tais.ac.jp/education/faculty/c-2/blog/>) にアップするので、そちらも併せて参照すること。

IV. レポートの指示 (評価、〆切、提出場所)

レポート分量：上記Ⅲを参照

〆切：5月9日(月) 17:00

提出場所：教育人間学閲覧室(2号館4階)

提出の際の注意：レポート提出用紙(緑の紙：提出時に副手さんから受け取ってください)をつけ、授業名を基礎ゼミナール、教官名に基礎ゼミナール担当教員の名前を書くこと。

レポートの評価：以下の観点をもとに行なう。

- ・基本姿勢：レポート作成の基本的ルールが守られているか(書式、引用など)。
- ・批判的理解：情報が的確に理解され吟味されているか。
- ・わかりやすい表現：正しい日本語でわかりやすく書かれているか。
- ・論理的な表現：自分の意見が論理的に書かれているか。

レポートは、添削、コメントを付して、後日返却します。

教育人間学 4年生用 課題

I. 学習テーマ設定の趣旨、求めたい学習の成果や目標

3年次で履修した教育人間学専門ゼミナール(以下、専門ゼミ)Ⅰ、Ⅱでは、卒業論文および卒業研究(以下、卒論・卒研)のための準備として、哲学・宗教学、教育学、心理学等の基本的な知識、研究手法について学んできた。4年次にはゼミでの学習を活かし、より具体的な研究テーマを定め資料を収集し、分析考察して、実際に卒論・卒研としてまとめ上げる。4月からの休業期間を利用して、研究テーマを明確化し、卒論・卒研作成の準備として特定の資料、文献について調べまとめる。

II. 学習テーマの内容

1. 専門ゼミⅠ、Ⅱでやったことをふり振り返り、卒業論文にどうつなげられるかを考え、卒論・卒研でやろうとする具体的なテーマを明確化する。

2. やろうとしている卒論・卒研テーマに即して、専門ゼミⅠ、Ⅱで学んだ内容をどう展開、発展できるか考える。
3. 指導教官と相談の上、研究内容を展開、発展するために有効である資料、文献を少なくとも一つ定める。
4. 資料、文献の内容についてまとめ、レポートを作成する。

Ⅲ. テーマ学習の方法

- ・ 卒論・卒研のテーマとして、あまり大きく漠然としたテーマではなく、具体的なテーマに絞ること。(たとえば×「日本剣道とひとつくり」、○「明治期の人材育成と新渡戸稲造「武士道」)
- ・ レポート作成に関しては、できる範囲で、昨年度の専門ゼミでの学習成果との継続性を明らかにする形で書く。
- ・ テーマの設定、資料、文献の選定のために、卒論・卒研提出予定者が集まる機会を持つので、必ず出席してください。

日時：4月6日(水) 11:00～

場所：1031 教室

- ・ 課題の作成にあたっては、適宜、メール等で指導教官と連絡を取り、指導を仰ぐこと。

Ⅳ. レポートの指示(評価、〆切、提出場所)

レポート分量：4000 字程度

〆切：5月9日(月) 17:00

提出場所：教育人間学閲覧室(2号館4階)

提出の際の注意：レポート提出用紙(緑の紙：提出時に副手さんから受け取ってください)をつけ、授業名を専門ゼミナール、教官名に専門ゼミナール担当教員の名前を書くこと。

レポートの評価：以下の観点をもとに行なう

- ・ 基本姿勢：レポート作成の基本的ルールが守られているか(書式、引用など)。
- ・ 批判的理解：情報が的確に理解され吟味されているか。
- ・ わかりやすい表現：正しい日本語でわかりやすく書かれているか。
- ・ 論理的な表現：自分の意見が論理的に書かれているか。

レポートは、添削、コメントを付して、後日返却します。